

CP-1-i-01	薬学の心構え I	第 1 学年	前期 必修	1 単位
担当者	田中 隆治・重野 豊隆・町田 昌明			
一般目標 (GIO)	医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における薬剤師の役割を理解し、使命感を身につける。倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。			
到達目標 (SBOs)	<p>【医療人として】</p> <ol style="list-style-type: none"> 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) 患者・家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度) <p>【患者安全と薬害の防止】</p> <ol style="list-style-type: none"> 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) <p>【薬学の歴史と未来】</p> <ol style="list-style-type: none"> 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)。 <p>【生命倫理と医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) <p>【患者・生活者と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度) 			
受講心得・準備学習等	毎回(2コマ連続)、講義内容を受けて、SGD(small group discussion)を行う。出席を重視する。各回の内容に関する1時間以上の予習を前提とする。なお、外部講師の都合で講義内容の順序が変更になる場合がある。			
事後学習・復習等	毎回の講義内容とSGD(small group discussion)の成果を、指定日までにレポートとして提出すること。レポート作成のために毎回3時間以上の復習を前提とする。			
オフィスアワー	田中隆治:講義担当日の午後(学長室)、重野豊隆:毎週金曜日の午後 17:00-18:30(哲学研究室)、町田昌明:毎週金曜日の午後(実務教育研究部門)			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義とそれを受けた SGD		
回	項目	内容	担当者	SBO コード
1	薬学研究の勧め	薬学の歴史、薬物療法の歴史など	田中	a(1)-④-1・2
2	将来の薬剤師と薬学	将来の薬剤師と薬学の果たす役割についての討論など (SGD を実施)	田中	a(1)-④-4、 a(5)-①-1
3	医療倫理	緩和医療の現状と課題など	重野	a(2)-②-3、 a(3)-②-1
4	医療倫理の問題	終末期医療に関わる医療倫理的問題についての討論など (SGD を実施)	重野	a(1)-①-5~7、 a(2)-③-1
5	生命倫理	人の誕生に関わる生命倫理など	重野	a(2)-①-4、 a(2)-②-3、 a(3)-②-1
6	生命倫理の問題	人の誕生に関わる生命倫理的問題についての討論など (SGD を実施)	重野	a(1)-①-7、 a(2)-①-1・3
7	薬の副作用と薬害	薬害の原因と社会的背景及びその後の対応など—薬害被害者の声を聞く	町田	a(1)-③-6、 a(1)-②-3
8	薬害の背景と回避手段	副作用の回避と薬害の回避についての討論など (SGD を実施)	町田	a(1)-③-5、 a(1)-③-7
9	薬剤師への招待	薬剤師の役割の変遷、薬剤師の基本的な資質など	町田	a(1)-④-3、 a(5)-②-1・2
10	薬剤師の役割	薬剤師の役割と学習内容についての討論など (SGD を実施)	町田	a(1)-①-1・2、 a(1)-①-4

成績評価の方法	レポートの内容、及び講義を受けた SGD への積極的参加によって評価する。
成績評価の基準	レポート 75%、SGD の積極的参加評価点 25%、総合して 60%以上を合格とする。
教科書	なし
参考書など	リチャード・ドーキンス「利己的な遺伝子」(紀伊国屋書店) アーサー・ヘイリー「ストロング・メディシン」(新潮社) 日本薬学会 編「ヒューマニズム・薬学入門」(東京化学同人) 小林静子・江原吉博 編集「薬学生のためのヒューマニティ・コミュニケーション学習」(南江堂)